

# 令和8年度 愛知教育大学入学試験問題

## 標準的解答例または出題の意図及び評価の観点

【前期日程】

科目名：：総合問題（教育ガバナンスコース）

I

問1

(解答例)

配慮・工夫	理由
ショッピングセンターに、活動場所を設置している。	貧困地区に住む保護者は、庶民的なショッピングセンターで過ごすことが多いから。
診療所で、育児サークルを開いている。	健診のついでにピープが開いている育児サークルの存在を知ることができ、サークルに参加しやすくなるから。

問2

(解答例)

配慮・工夫	理由
子育てに関する喜び、悩み、不安などを話せるようなつながりづくりのきっかけをつくること。(43字)	今日では、核家族も多く、ひとり親家庭などもある。したがって、子育てを行っていると、悩みや不安があっても、相談できる人が近くにいない場合が多いため、孤独感を感じる人が多いから。(88字)
おもちゃ、遊び、絵本の読み聞かせなどのさりげない活動を通して、親子関係が築けるように支援すること。(49字)	孤独な状態で子育てをしている保護者は、親子関係の築き方が分からない場合がある。こうした保護者に対しては、実際の活動を通して体験的に親子関係の築き方に気づけるように支援することが効果的だから。(95字)
子育てについて「かくあるべし」と教えるのではなく、保護者が自然と気づけるようなきっかけづくりを大切にすること。(55字)	子育てに悩みや不安を抱えている保護者の立場に立つと、「教える」という視点から子育てについて学ぶ方法では、子育てへの不安、自信のなさがより大きくなるおそれがあるから。(82字)

(出題の意図)

教育ガバナンスコースで学ぶ学生には、学校・家庭・地域・行政など、多様な教育関係者をつなぎ、協力体制を整えていく資質が求められる。本問題は、その資質を見極めるために、子育て支援を題材とした。保護者が抱える悩みを多面的に理解したうえで、行政機関による支援策の企画・調整に求められる工夫・配慮を読み解き、表現する力を問うものである。

(評価の観点)

理由については、子育て中の保護者が置かれている状況が筋道立てて、説得的に説明できているか否かを重視する。

なお、資料2で触れられている「楽しくものづくりに取り組む機会をつくることで、日常の子育ての疲労感から解放されるようにすること。」については、本題の資料1には該当する内容は紹介されていないため、問3で問うているような「共通する配慮・工夫」には含まれないと考えられる。したがって、この点を解答した場合は、評価の対象とはならない。

## II

<解答例>

問1 文部科学省

問2 (1) ○ (2) × (3) × (4) × (5) ○

問3

(解答例)

- ・学費(授業料)が高額である。
- ・必ずしも小学校や中学校の卒業と見なされるとは限らない。
- ・罰金が科される可能性がある。

問4

(解答例)

インターナショナルスクールに通わせる保護者の多くは、英語のコミュニケーション能力とリーダーシップスキルの重要性が高まっている点を理由として挙げている。インターナショナルスクールは、複数教員担当制の少人数クラスや、教科書を使わない議論ベースの生徒中心型学習、海外への大学進学に有利な国際的なカリキュラム、柔軟なカリキュラム、外国語での授業、創造性や協働の重視など、日本の公立学校とは対照的な教育方法を行っており、日本の伝統的な学校に変わる存在として一部の保護者から評価されている。さらに日本の公立学校の環境(特に入試)への懸念からインターナショナルスクールを選

ぶ保護者もいる。(287字)

(出題の意図)

教育ガバナンスコースに入学してから必要とされる英語能力(関連する英語文献を読み、正しく理解できる英語理解能力)と、日本語の的確な文章表現能力が身についているかを、教育関連の英語ニュースを題材として問うものである。

(評価の観点)

問1から問4まで、出題文の内容をどれだけ把握できているかが問われている。問1は、正式名称を答える問題なので、「文科省」は不可とする。問3は、デメリットとして、高額な学費、卒業認定されない可能性、罰金の可能性の3点を読み取れているかどうかを評価する。その際、具体的な数字が入っていても、入ってなくても正解とする。問4は、英語の内容理解の力だけでなく、限られた文字数の中で示される情報量と文章の完成度を評価する。出題文に対する主観的な意見を問う問題ではないため、そのような意見論述は減点となる。